

令和7年3月19日
(学)トヨタ学園理事長 増田義彦

豊田工業大学 令和6年度卒業生のみなさんへ

豊田工業大学の学部を卒業された皆さん、大学院の修士課程を修了された皆さん、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。今日、晴れの日を迎えることができたのは、皆さん一人一人が積み重ねてきた毎日の努力の成果です。心からの敬意を表したいと思います。

また、これまでの学生生活を振り返れば、ご指導いただいた先生方や大学事務の方々、諸先輩、後輩、友人、さらに、理解と支援をいただいた派遣企業の皆様、見守り続けてもらった保護者の皆様など、多くの方々に支えられてきたことに改めて気づくと思います。これらの方々への感謝の気持ちも大切にしてください。

本日ここに卒業、修了された皆さんは、新型コロナウイルス対策の制約を受けながら、学びを続けられた特別な期間がありましたが、その不自由さに負けずに過ごし、卒業論文、修士論文をまとめられ、学位が授与されています。改めて、お祝いを申し上げたいと思います。

ここの会場名は、豊田喜一郎記念ホールとなっています。豊田喜一郎氏は、87年前に国産の自動車事業を興しましたが、その立上げの苦勞から、人こそが産業を支える本質と理解し、事業が発展した折には自ら大学を設立し社会・産業を発展させる人材を育てたいとの強い想いを抱いていました。その想いをトヨタ自動車の社会貢献活動として「豊かな人間性と創造的な知性を備えた実践的技術者を育成する」大学として、1981年、44年前に実現したのが豊田工業大学の開学です。新キャンパスが完成し、本日の式典が豊田喜一郎氏の名を冠したこの記念ホールで開催されるようになったことは、本学にとって大変意味深いものです。

さて、時代が大変革を迎えていることについては皆さんも肌で感じていると思います。日本は少子化により急激に生産年齢人口が減少しており、社会活動を維持、発展させるための人材の確保が大きな課題となっています。現在のように大きく変化している社会では、過去の成功体験の方法論は役に立たず新しい社会を生み出すことが求められています。

たとえば、将来の目的地やそこに至るルートを示す明快な地図がない時代といえます。この様な時代には、目的地はわからなくとも、どちらに進めばよいかを示す手元に置いた羅針盤が非常に重要になります。その羅針盤を手に入れるには、ひとりひとりが「人として果たせる能力を向上させること」が必要になります。

何が社会に役立つことなのか、何が価値あることなのか、また、手に入れた情報は正しいものなのかなど、自分で考え判断する力があることが羅針盤となるわけです。人と人とのかかわりを大切に、また、自分の体験を原点とした深い思索を大切に“学び”を、これからも、絶えることなく続けることによって、みなさんの手元に狂いのない羅針盤を持ち続けることができると思います。

“学び” 続けることと述べましたが、ここで、日本文化にある“学び”の思想についてお話します。

武道、茶道、華道、書道、能や狂言、陶芸など多くの芸道において、学びについて「守破離」（守る、破る、離れる）という学びの思想があります。この言葉を聞いた方も多くいると思います。“守る”、は基本をしっかり身に着けること、型を身に着けること。“破る”は、広く学ぶことによってお決まりの型から外れた自分なりのやり方ができるようになること、“離れる”は、この説明はなかなか難しいのですが、「状況に応じて適切な判断ができ、型や過去にとらわれずに自在に対応できる」、すなわち「適切に判断して創造性が発揮できる」力を身に着けるということになります。

特に、卒業、修了して社会に羽ばたかれる皆さんには、これから初めて出会う仕事のなかで、この守破離の過程を踏みながら継続的に“学び”を続けて、持続可能な社会の“創り手”として大活躍していただくことを心より願っています。

過去の成功体験と決別する時代といわれても、どうすればいいのかという感覚を持つかもしれません。この迷いに関連して、お願いがあります。それは、「人生を急がないでいただきたい」ということです。

皆さんは、まちがいなく70歳までは現役で活躍する世代です。自分の想いや夢に向かっていく時間は、充分にあります。やり直しができる時間もあると思います。世間の風評や他人の言葉に煽られて、焦った気持ちになって自分を見失わないように気を付けてください。みなさんには自分を見失わないようにして、成長を重ねていただきたいと思います。

さて、本学の卒業生は既に3400人を超えています。本学では、皆さんが育った学び舎として、卒業生の方々を支援し、卒業生のネットワークが役に立つように

するため同窓会活動や卒業生が参加できるイベントなどの充実を進めています。折に触れ、豊田工大のホームページにアクセスして同窓会や本学の様子を覗いてみてください。

最後になりますが、何事についても“体と心の健康”がその基盤です。いろいろな困難や苦難に対処するときも健康第一ということを念頭に置いて、乗り切ってください。時には、逃げの一手を使うことも必要かもしれません。

卒業生のみなさんが、それぞれの立場で活躍して戴くことを祈念して、私からのお祝いのメッセージと致します。

本日は、おめでとうございます。